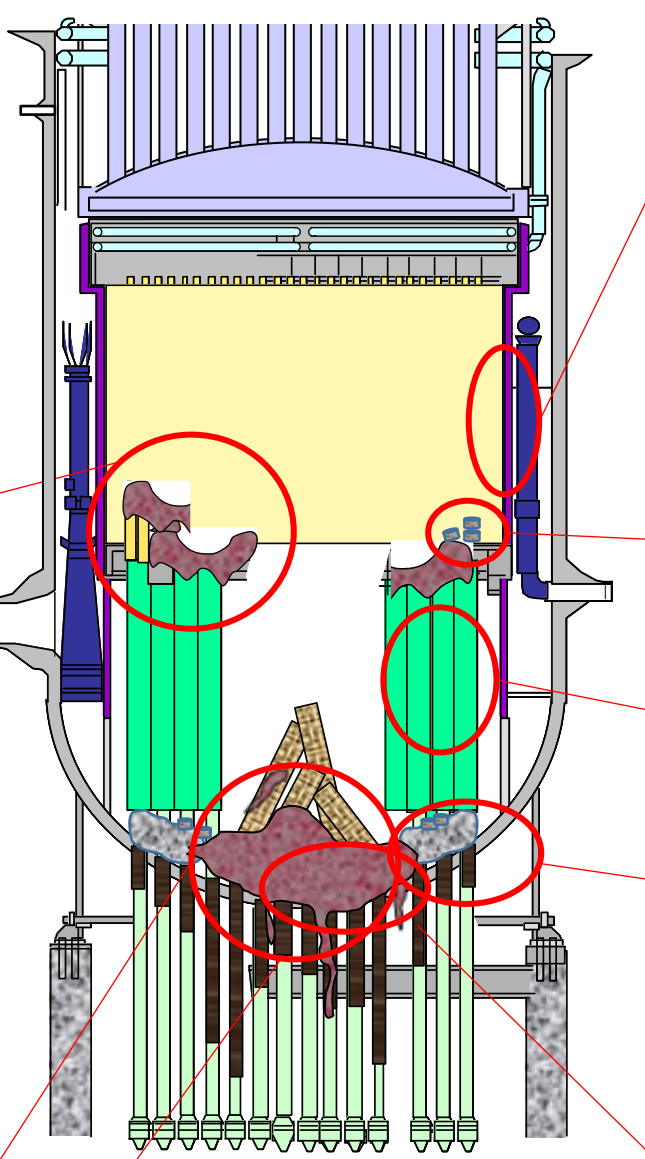


2号機のデブリ分布・RPV・PCV状態の推定図

凡例

- ・水素発生によるPCV圧力上昇からエネルギー量を想定し、大部分の燃料が溶融したと推定 (実測・解析)
- ・CS注水時に温度低下が確認されたことから、低流量のCS注水で水がかかる炉心外周位置に燃料有と推定 (燃料支持金具、CRGTに溶融燃料が落ち込み固化した場合でも熱源として同等な挙動を示すため、詳細なデブリ位置は推定不可能) (実測)
- ・ミュオン測定の結果から、炉心外周部に燃料が存在している可能性 (実測)
- ・燃料棒があるとしても外周部に一部 (一般的な推定)
- ・溶融燃料が固化した一般的な酸化物デブリと推定 (一般的な推定)



- ・FDW流量増加時にPLR系圧力上昇したことから、シュラウド外に水位が形成されている可能性 (実測)
- ・CS注水による温度低下、注水量増加時のシュラウド外水位上昇から、シュラウドの大規模損傷はないと推定 (実測)

- ・外周部における燃料の温度上昇はそれほど高くない可能性があることから、ペレットが外周部に残っている可能性 (一般的な推定・試験・解析)

- ・高温の燃料デブリからの熱移動が小さい場合、CRGTは溶けずに残る (一般的な推定)

- ・粒子状デブリ・ペレットがある場合、淀み部にたまる可能性 (一般的な推定・試験・解析)

- ・PCV内部調査時に外周部のCRDが確認できており、またグレーチング欠損の状況から、RPVの穴は中央部およびその周辺部と推定 (大きくない) (実測)
- ・穴から落ちたデブリの一部はCRDにへばり付くと推定 (一般的な推定)

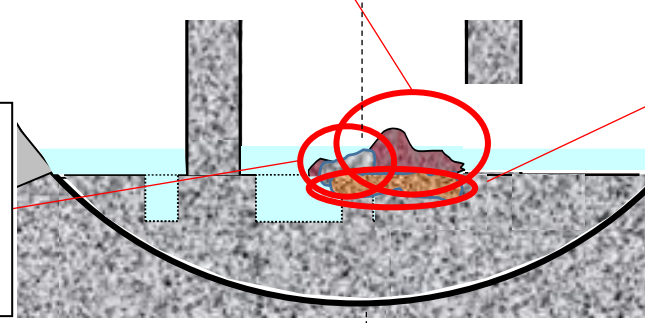
- ・MCCIを起こした燃料デブリはコンクリートと混合していると推定 (一般的な推定)
- ・PCVシエルの破損の傾向は無い (サンドクッションドレンパイプからの漏えいなし) ため、MCCIは限定的と推定 (実測)

- ・ミュオン測定にて、圧力容器底部に燃料デブリと思われる高密度物質の影を確認。下部プレナムに落下した燃料がRPV底部に残存している可能性 (実測)

- ・燃料デブリの一部はMCCIを起こさず固化した可能性 (一般的な推定)
- ・PCV内部調査時に、蒸気が立ち上る様子を確認。燃料デブリが水面から出ている可能性 (実測)

- ・CRGTの破損に伴いCRD内部にデブリが侵入している可能性 (一般的な推定)

- ・PCV床に水が溜まっていた場合、粒子状デブリが形成される。
- ・粒子状デブリがある場合、淀み部にたまる可能性 (一般的な推定)



- 燃料棒
- 酸化物デブリ (多孔質)
- 粒子状デブリ
- コンクリート混合デブリ
- 健全CRGT
- 破損したCRGT
- 健全CRD
- CRD (内部にデブリ)
- 健全シュラウド
- ペレット
- バルーニング燃料※
- 酸化物デブリ※
- 重金属デブリ※
- 粉状ペレット※
- 被覆管残渣※
- 溶融炉内構造物※
- 固化B4C ※
- 制御棒混合溶融物※

※2号機の推定図中では使用していない